

## 教育民生常任委員会 摘 録

1. 開 催 日 令和3年11月19日(金) 議場
2. 出席委員 林高正委員長 宇江田豊彦副委員長 坂本義明 藤木百合子 國利知史 前田智永
3. 欠席委員 なし
4. 事務局職員 丸飯龍太議会議務局主事
5. 説 明 員 なし
6. 傍 聴 者 なし
7. 会議に付した事件

- 1 教育条件整備について(学校適正規模・適正配置ほか)

---

午後1時40分 開 議

○林高正委員長 ただいまから教育民生常任委員会を開会いたします。

---

- 1 教育条件整備について(学校適正規模・適正配置ほか)

○林高正委員長 本日の協議事項は、教育条件整備について、学校適正規模・適正配置ほかということ  
で、先般行いました所管事務調査、田森にある栗田小学校と庄原小学校の視察を受けて、一定の取り  
まとめをしたいということで、本日、委員会を開催させていただいております。私の個人的な考えで  
すけれど、見に行つて、それを報告書に書いて出して終わりというのではなく、少し継続して調査す  
べきだろうと判断し、副委員長に相談したところ、副委員長も同じ考えでしたので、きょうこう  
取りまとめの委員会を開催させていただいております。まず、皆さんが栗田小学校と庄原小学校へ行  
かれて授業を見られたわけですが、どのような感想をお持ちになったかというのを聞かせていた  
だきたいと思います。私の目の前の前田委員から手短かに感想を述べてください。

○前田智永委員 複式の中でも栗田小学校は児童が1人の学年があるということで、大変勉強になりま  
した。複式で、1、2年生、3、4年生、5、6年生と2学年ごとの教室でしたけれども、やはり1  
人というのは、どこまで可能なのか、どこまで不可能なのかといった詳しいことはまだわからないで  
すけれども、保護者の方がどう思われているのかという心配は個人的に持ちました。ただ、学校とし  
ては、やはりとてもすばらしい学校で、校長先生を初め先生方もとても尽力されている様子がわかり  
ましたし、見学させていただいて大変勉強になりました。逆に、庄原小学校は、大規模小学校という、  
庄原の中ではということですが、教室があの大きさで、あの人数が入って本当に適正なのかど  
うかといったところにごく疑問を持ちました。隣の教室とかに廊下を通じて声が漏れないかとい  
った質問に対して、校長先生は問題ないですとおっしゃいましたけれども、やはり見学している中  
でもよそのクラスの音がすごく響いていましたし、ドア側の児童が果たして本当に聞き漏れをしないの  
か、学習の中で不備がないのかといったことがすごく気がかりになりました。学校としては、大変、  
先生方は御尽力されて、人数もたくさんおられますし、皆さんそれぞれに協力して頑張られている  
のだということが、作品展も通じて、すごく個人個人を尊重されている様子がわかって勉強になりまし

た。

○林高正委員長 藤木委員。

○藤木百合子委員 私は子供たちが複式だったということもあって、栗田小を見せていただいて、少し昔思い出して、こうだったなという感じで、非常に懐かしい感じがして、子供たちもとてもきびきびと、次に何をやったらいいかというようなことも、自分たちから前向きに取り組めるように、先生方がルーチン化されてうまく回っている感じがしました。庄原小は、やはりきれいに建ち変わって非常に施設とか設備面で整っているという感じはしたのですが、前田委員と同じように、やはり教室の空間のなさというか、そういう意味では、もうこれ以上子供たちがふえたらカバーできないだろうという感想を持ちました。人数が多いただけ切磋琢磨でいろんな刺激があるという面では、確かに小規模校にはないものがあるなという感じはしたのですが、この間、テレビを見ていても、今コロナでマスクをして、子供たちの表情がわからないということをやっていたのですね。そういうのを聞くと、そうは言ってもやはり小規模校のほうが、こういったコロナのとき、子供の数が少ないほうが先生的には一人一人の子供により添える条件が非常に大きくて、やはり庄原小ぐらいになるとなかなか難しいのではなかろうかという気がいたしました。以上です。

○林高正委員長 國利委員。

○國利知史委員 まず、栗田小は全学年複式ということで、特に1年生は1人ということだったので、先ほど前田委員が言われたように、私も1人というのはなかなか厳しいのではないかという思いは個人的にははしましたけれど、保護者の方がどのように思われるかというところが重要ではないかと。保護者が1人でもいいよと、栗田小学校で目の行き届いた丁寧な教育を受けさせたいという思いであるのなら私はそれでいいのかなと思います。個人的にはもう少しほしいほうがいいのかなという感じにはなりました。校長先生も言われていましたけれど、学力が上がっているというか、他の平均よりもいいというところがあったのですけれども、やはり庄原市が言われるのは、切磋琢磨できないとか、学力をつけるためには少し大きいほうがいいというニュアンスのことも感じ取れるのですけれども、決して少ないから学力が上がらないとかそういうことではないのだとわかりました。なので、適正な規模かどうかと言われれば保護者に任せるということで、私は学力の問題ではないというところを感じました。庄原小に関しては、視察後、体育館で展示を見させていただいたときに、校長先生と少し話をしたときに、私は山内に住んでいて、山内が特別なかもしれないですけど、やはり地域の人と小学校との接点が非常に多いので、庄原小は地域とのかかわりはどうなのですかと聞いたのですけれど、正直言うとかわりは少ないということをおっしゃっていたので、庄原市が言う、地域住民と一緒にやっていく教育、地域教育という意味では、庄原の規模と言うか、範囲がこれ以上広くなると、これ以上合併しまうと、そういう地域とのかかわりという面では厳しくなるのかなというところで、特に6年生のパソコンのプレゼンの授業とかはすごく印象に残ったのですけれど、地域のかかわりが少ない分、地域のことを考えるような教育を考えて工夫してやられているのではないかとも感じました。規模的には、私も庄原小はもうこれ以上は厳しいかなというところは感じました。以上です。

○林高正委員長 坂本委員。

○坂本義明委員 庄原小学校は前の委員会ときものぞいて、内容は大体わかっていたのですが、僕としては、後から考えると、庄原小学校へ先に行ってから栗田小に行ったほうがすごく変わった見方が

できるのかなという思いがありました。あと、栗田小学校で校長先生がおっしゃったのは、人が足りないので、事務も兼務したり、教頭が授業を持っているという話があったので、そういうマイナス面もあるのかなと思った。教育民生常任委員会にいても、栗田小学校へ直接行くことはまずなかったのです。自治振興区を通してものを言ったりとか、自治振興区がガードしているようなことがあったので、初めて行ったような感じだったのですが、一番感じたのは、あの規模の学校で、あれだけの設備をして、十二分な環境で授業を受けておられるので、これに校長がおっしゃったように学力がついてくれば、それも1つもありかなと思いました。1人の子供が授業を受けるというのはほとんど競争がないので、よその複式も見たのですが、複式の授業を見る先生は、やはり相当な実力の先生でなければ子供にとってはずっとマイナスイメージではないかと私は思いました。それに引き換え、庄原小学校は、今回、2回か3回目なのですけれども、やはり教員の数もたくさんおられるし、フォローする先生もおられるし、十二分な施設、環境でやっておられるのだけれど、強いて言わせてもらえれば、学力のほうで栗田小に負けないくらい頑張してほしい。そういう思いでありました。もう1つは、庄原小学校でも少し言ったのですけれども、大きい学校と小さい学校の相互交流をやってないと。やりかけたのだけれどやってないという話もあって、多分、東城のほうもそうかなと思うのですけれども、ここでは少し話がずれるかもわかりませんが、同規模の学校で適正配置の問題があったときは、相互の交流をしているのかということを知りたかったと思いました。以上です。

○林高正委員長 副委員長。

○宇江田豊彦委員 一番感じたのは、栗田小の小規模のところへいくと、人配上の課題が大きいということです。教頭は、小学校においては事務長のような存在なのです。だけれど、担任を持つということで、総合的な管理ができていくということです。それと、校長先生もおっしゃっていましたが、事務職員が欠員で、やっと途中でことし入れていただいたということで、大変助かっているということをおっしゃっていました。ですから、やはり最初に切られるのが学校事務職であり、それから養護教諭であり、そういうところが人配上、小規模校は課題となってくるという現状を見てとることができました。学力云々の問題は教育内容ですから議会がどうこういう問題ではないと思いますが、小さい学校のほうが早く成果が出やすいとは思いますが、それから庄原小のクラスを見せていただきましたけれど、やはり手狭という感じがいたしました。本当に子供たち一人一人の顔を見ながら授業することはなかなか難しいだろうと感じました。それぞれによさがあって、それぞれ特徴ある形でやっておられた。それから先ほども誰かおっしゃっていましたが、地域との関係性については、やはり大規模になっていくと薄らいでいく。小規模のほうがより地域と密着した形で教育実践ができるということであろうと感じました。

○林高正委員長 私自身感じたことは、皆さんが全ておっしゃってくださったのですけれども、初めて複式の授業を見せていただいて、はっきり言って、子供たちが自学習、先ほど藤木委員もおっしゃっていましたが、自分たちで学ぶというスタイルはなかなかのものだと感じました。ただ、いかんせん、やはり児童数が少ないということは、スポーツとかいろんなことなども考えるとかわいそうかなというところも感じたところです。庄原小については、庄原市内で唯一の300人を超えるマンモス校ということでございますけれども、校長もコロナ対策で机を離している関係で狭く見えますということをおっしゃっていましたが、それはそれとしてあったのではないかと感じました。5、6年の国語科のタブレットを使っている授業も見せていただいたのですけれども、これは我々の子供のころを思う

と隔世の感があって、パワーポイントをパパッと操る姿を見ると、えーっという感想を持ったところ  
です。ただ、先ほど國利委員もおっしゃっていましたが、夢を語ったりする内容については、新  
たな地域教育と言うか、そういったやり方なのかなというのも感じたところでございます。皆さんに、  
今、栗田小学校、庄原小学校を見ての感想を述べていただいたわけですが、実際にこれを何で選  
んだかということになると、両極端を選ばせていただいたわけですが。片方は複式、どうしても地域に  
残してくれないといけないということで、交渉窓口は地域だということで、それをかたくなに拒否さ  
れている。片方の庄原小は、ことし4月に川北小学校の児童を受け入れたと。それまで10名ぐらいは  
通っていたと。その子たちがどうなのかということを見たかったという対比で2カ所にさせていただ  
いたのでありますが、冒頭申し上げたように、これは報告書を書いてそれで終わりというのではなく  
て、どういう切り口でいけばいいのかわからないけれど、このまま置いて、教育長がいつも言わ  
れるけれど、行こうとしても向こうが受けてくれないのだという一点張りをされているのですよ  
ね。それで何で再配置するのかと言えば、教育環境を整えるのだと。これも一点張りなのです  
ね。ですから妥協点が全然ない中でやってきているので、どのように教育民生常任委員会、議  
会として対応ができるのか、対応すべきなのかということも議論してみたいと思うのですが、  
栗田小学校について、皆さん、どういう御意見をお持ちですか。國利委員。

○國利知史委員 教育委員会と、保護者は別として、地域の方々ももう完全に交われない状態であると  
私は理解しているのですが、であれば、その場を設定するとか、私たちが間に入って取り持つよ  
うな感じにしたほうが、多分個人的に林さんもよく知っている方がいらっしやると思うので、個人的  
に議員として話を持っていけば、林さんも来るなら行ってみようかみたいな感じで。今までの話を聞  
く限りでは、なかなかもう二者は交わりにくいのかなというところがあるので、私たちが間に入って  
その場を設定したほうがいいのかなどは感じました。

○林高正委員長 前田委員。

○前田智永委員 適正配置の計画自体が、発表から現在に至るまでの間に少し形が変わった状況がある  
と思うのです。市長の提言ですとか、教育長の再任、いろいろなことがあって、今また新たにと言  
いますか、スケジュールの見直しですとか、内容の見直しといったところも含めて、今、少し違うの  
ではないかと思うのです。でも、栗田小学校とは別の、自治振興区側はかたくなになっていらっしやる  
ところがあって、私は個人的にですけど、そこから進んでいらっしやらないのではないかと。まだ  
お伺いしていないので、どういった思いをされているのかわからないですけども、まだ以前の状況、  
強制的に説明を聞かされて統合させられるといったような恐怖観念があるのではないかと思うので、  
一度、自治振興区の方と、どういった思いでいらっしやるのか、今後どうしようと思ってい  
らっしやるのかということをお伺いできたらいいのではないかと思います。

○林高正委員長 藤木委員。

○藤木百合子委員 先日、田森地域で語る会があって、私は担当だったので出席したときに、もちろん  
適正規模・適正配置の話題も出ますよね。そういった中で、やはりそこは人口減少問題を考えるとい  
うことがテーマであったのですが、これは地域の理論かもしれないけれど、地域としては、そ  
の人口を保っていくには小学校は必須だと。病院、小学校、買い物とかいうものがないところで人口  
をふやしていくと言うか、人口を守っていくというのはもう不可能だと。だから、小学校を適正規模・  
適正配置で持っていくということはもう頭はないと言うか、小学校があるのが当然という感じを受け

たのです。そういった中で、先ほど宇江田委員が言われたように、事務員とか人員配置の部分も1年間放っておかれたというような状況で、田森地区は、学校に対してもそういういったやり方をされているのかもしれないのだけれど、たまたま人員配置が進まなかっただけなのかもしれないのだけれど、そういった状況が、もう負の感じで、そういうやり方をされるということで不信感だらけで、行政に対して聞く耳を持たないではないけれど、そういった姿勢が見受けられました。ちょうどそこへ山内小学校をなくさないために一生懸命努力されている方も来られていたのですけれど、栗田小学校は、とてもすてきな小学校で、本当にいい環境の中でやっておられると。やはり山内などもそうなのだけれど、学校がないということは非常に地域づくりの中で考えられないような感じのことも言われたりしておりまして、議会が間に入って余り急がないほうがいいような感じはしました。早急にというのではなくて、教育委員会も計画をやめるとは言われないうし、進めるという強硬な姿勢も今そんなに見えない状況の中で、説明にも来ないという感じもあるのだけれど、余り焦ってもあれなのかなという感じを受けました。あと、遊具で、山内小も滑り台が規格外だということで使われないようにされているのです。栗田小学校のものも、2つぐらい遊具がだめになって、そのままなくなって放置されていると。その方が言われるには、もう子供にとって雲梯とか滑り台とかブランコというのは非常に貴重なものだけれど、そういった設備のことも教育委員会と言うか、市のほうが考えてないみたいなことも言われて、適正規模で統廃合する学校にはもうそういったものもやってくれないのかということも言われたりして、結構不信感と言うか、なかなか難しい問題と感じました。

○林高正委員長 國利委員。

○國利知史委員 遊具の件なのですけれど、僕もその話を聞いて、すぐ教育委員会に問い合わせたのです。規格に合わないから撤去したと僕は聞いたので、規格外のものが何でそこに設置してあったのかということを手がかりに不信に思っ一応聞いてみたのですけれど、人から話があるので、そのイメージしかなかったのですが、教育委員会が言うには、規格外という概念が、設備の規格ではなくて、安全基準に合っていないという規格らしいです。だから、毎年、小学校から遊具の点検とかをしたものを教育委員会に上げてくるらしいのですけれど、そこで恐らくですけど、栗田小学校に関しては滑り台と雲梯が危ないのではないのかということが上がってきて、そのあと山内小も滑り台がなくなったのですけれど、それが上がってきて、教育委員会と小学校二者で、そこを確認してどうするか、修繕できるものは修繕しますと教育委員会は言っていて、修繕が難しいものは撤去という感じで、多分撤去に当てはまったのだと思うのですけれど、何で補充されないのかということを知ったら、予算の関係があるので、予算がそちらに回せそうなら随時補充はしていく段取りにはなりますという返答が一応返ってきております。

○林高正委員長 その他ございますか。坂本委員はよろしいですか。

○坂本義明委員 今、一生懸命3人がおっしゃったことを覆すようなので、少し言いにくいだけれど、今まで議会もその地域へ行って保護者の話も聞きましたし、自治振興区の話も聞きました。もう完全に一枚岩になってしまって話は聞かないと。向こうの意見はどんどん言わせてもらおうと。その代わり、あなたの意見を聞かなくてもいいのだというような会合があった。時間がたって考え方が変わっているのかも知れませんが、先ほど言ったように、栗田小学校に行かせてもらったのが、僕らは初めてだったという感情的なものがどうしても残っているので、これは林委員長の方で話ができれば一番いいのだけれど、まず行ったらその話はしないようにしようということが先に出るのです。かたくなにそ

ういうのを持っておられるけれど、委員会でも行きました。委員会で行って聞くだけ聞いて帰る。言葉は悪いけれど、ガス抜きみたいな形で聞いて帰ったことはあります。時間がたてば、今のように1学年が1人しかいないようになったときはまた考えられているのかなと思うけれども、今までの経緯はそうなのです。だから、向こうの振興区の委員長、事務局長をうまいこと口説いたら話ができるかもしれないけれども、それが答えになるような話にはならないと思います。

○林高正委員長 副委員長。

○宇江田豊彦副委員長 議会がお話に行くということになれば、どうしても教育委員会がした話を説得しに行くような雰囲気になると思われます。だから、我々の仕事とすれば、下級機関で決まったことについて、きちんとただしていくということですから、今までの庄原市総合教育会議等々の中身を受けて、教育委員会として、新たに具体的な取り組みをどうするのかということをお我々はただしていかなければならない。それで具体的な方向が出て、例えば、栗田小についてはもう強固なのでこれで凍結しますという方針を出すとか、第2グループについてはこういう取り組みにしますということが具体的になるのかどうなのかということをお教育委員会へただしていくというのが我々の仕事だと思うのです。それを市民の皆さんに伝えていくということが必要だと思っています。ほとんど教育委員会はまだ動いてないですね。だからその辺を委員会として取り組んでいけばいいのではないかと思います。

○林高正委員長 國利委員。

○國利知史委員 栗田小はもう教育委員会としてはシャットアウトされているし、そこで話ができないから凍結すると持っていくと、ほかの学校も、栗田小はもう地域が反対していたから合併しなかったらしいという話になって、そこもそういう感じで、では、私たちが断固反対し続けようみたいな感じになるのもどうなのかなというところがあるので、やはり話し合いだけはやってもらったほうが、ほかのところのことも考えると、山内もかたくなに教育委員会を拒否してから残すみたいな感じになってもいけないという心配は今少ししているところです。

○林高正委員長 先ほど宇江田副委員長がおっしゃったのは正論でございます。ですから教育委員会の方針はどうか。変える気があるのかないのか。そういったことを我々も教育長にもずっと言っていますし、この前教育長は来られなかったけれど、部長と担当課長が3名来られてお話をさせていただきましたけれど、今までどおりの説明を繰り返していくということだったろうと思います。それで方向として変える気があるのかと、ある課長に言いましたら、いや私たちはそういうことはわかりませんということなのです。それで、実際我々が教育民生常任委員会として出かけて行って、自治振興区とお話ししましょうと言え、それは拒絶されると思うのです。これは私の私案ですけど、私と自治振興区長の横山邦和さんと一度、腹を割って話をしてみないと、実際のところこれはわからないと思うのです。彼は振り上げた拳をどうやって降ろしたらいいのかというところが実はもう見え隠れしているのです。子供を人質にとってはいけないし、やはり教育環境の整備とか言っているけれど、これも子供の将来にかかわってくることだろうと私は思っているのです。とりあえずは、横山区長と一度、私が話し合いをしてみ、そのことを皆さんにおつなぎしたりして、また教育長ともそういうお話もして、先ほど坂本委員も言っていたけれども、対立の構図をずっと引っ張っているわけです。だからそう簡単にはいかないということはわかっているから、藤木委員も言われたように、少し時間もかかります。それは当然かかるとお思いますから、その方向で少し動いてみたいと思っております。で

すから、どういう展開になるのかというのは全くわかりません。しかし、歩みをとめるわけではなくて、いろんな意味で、教育民生常任委員会として研究を続けていきたいと感じております。大体この程度で粟田小学校と庄原小学校の視察についての総括というか、1回目のまとめとさせていただきたいと思います。副委員長。

○宇江田豊彦副委員長　私が気にかかっているのは、粟田小学校が極端に言えばそのまま行くのなら、あの形での教育条件整備を考えないといけないと思うのです。だから、そういう方向に持っていかないと、人配はしてくれない、施設は触ってくれないみたいな雰囲気だったらもう全く話できません。だから、当面はこのままでいきますよ。その代わり、教育委員会とすれば、こういうできることをやっていこうと思うのですということをきちんと明らかにさせるという取り組みをしないといけないと思うのです。でないと、もうぶつかってままで終わってしまうので。

○林高正委員長　そうでなければ、先ほど言った意見になってしまいますから、そのあたりもやはり考えていかないといけないので、そのようにいたします。事務局、まとめとして私がまとめてあげればそれでいいのですか。

○丸飯龍太議会事務局主事　はい。

○林高正委員長　では、今回の視察については、正副委員長でまとめて上げさせていただくということで了解いただきたいと思います。では、今回はこれで散会させていただきます。

午後2時15分　散　会

---

庄原市議会委員会条例第 30 条の規定により、ここに署名する。

教育民生常任委員会

委 員 長